

ウラジオストック 51 番学校における日本語授業の実践

Report on teaching practice in Japanese classes at Vladivostok 51st school.

小林 勝年 KOBAYASHI Katutoshi

(教授・発達科学講座)

キーワード：日本語指導 Japanese language education 絵本 Japanese picture books
日本文化への関心 Interest in Japanese culture 対話型授業 interactive class

ロシアにおける日本語教育は、カムチャツカ沖で遭難した伝兵衛という日本人が 1702 年、ピョートル大帝の命令を受けて日本語を教えることに始まる。1736 年には、ロシア科学アカデミー附属日本語学校が創立され、日本人のゴンザが日本語を教えた記録が残されている。その後、日本語教科書や辞書など次々と出版され、1870 年にはサンクトペテルブルク大学に日本語教育課程が開設、1899 年にはウラジオストックで東洋大学が創立されるなど、モスクワ、サンクトペテルブルク、ウラジオストックの 3 都市を中心に日本語教育が拡がり(藪崎,2006)、近年は全国的な減少傾向にあるとは言え、70 を越える高等教育機関で 4000 名程度の日本語学習者が推移している(大政,2021)。

また、ロシアでは初等教育から日本語を教えている学校も多く、モスクワで 14 校、その他、極東ロシアを中心とした多くの小学校で日本語授業が行われている。とりわけ、1982 年に設置されたサンクトペテルブルク第 83 番学校は、浜口庫之助が作詞・作曲した「バラが咲いた」が校歌になるほど日本語教育に熱心で、約半数の子どもたちが二年生から週 2 回の日本語授業に出席している(キッズ外務省,2015)。一年生から日本語挨拶や折り紙などの日本文化が伝えられ、二年生からの準備教育が設計されている。語学だけでなく、習字や弓道、歌や踊りなど日本文化の伝達も授業の重要な柱となっている。

また、ウラジオストック 51 番学校は 1961 年に創設されたが 1986 年には周囲の学校との差別化を図るため日本語教育が義務化され現在は 2 年生から日本語授業が必修となり、低学年では週に 2 コマ、中高学年では 3 コマ実施されている(キッズ外務省,2014)。生徒総数は約 780 人で 39 名の教師のうち 6 名が日本語教師である。

授業では、会話、文法、漢字等が教えられているが、低学年では教師と生徒、高学年では生徒同士の会話形式の教育が重視され、その題材として日本の地理・歴史やアニメ文化などが取り上げられている。また、それ以外にも書道、折り紙、茶道、季節行事など日本文化に興味を持つような工夫がなされている。1987 年より、日本海側の都市を中心に毎年ホームステイを推進し、日本語弁論大会においては常に優秀な成績を修め、将来は日本企業や日本語教師を目指す卒業生も多い。尚、ロシアの学校は 4・5・2 年の 11 年制をとる小中高一貫校がほとんどで授業は 1 コマ 40 分間で、1 日に 4 ～6 コマの授業が設定されている。

Table.1 はウラジオストック 51 番学校の授業時間割であるが、二部選択制になっており低学年は午前の部に、高学年は午後の部に通っている場合が多い。夏休暇は 6 月～8 月の 3 ケ月間、冬期休暇 12 月～1 月において約 1 ケ月間ある。

Table.1 51 番学校の授業時間割

午前の部		午後の部	
1урок	8:15~8:55	1урок	13:30~14:10
2урок	9:00~9:40	2урок	14:20~15:00
3урок	9:50~10:30	3урок	15:10~15:50
4урок	10:40~11:20	4урок	15:55~16:35
5урок	11:25~12:05	5урок	16:40~17:20
6урок	12:10~12:50	6урок	17:25~18:05

筆者は 2021 年 10 月より 2023 年 5 月までウラジオストック 51 番学校にて 2 年間に渡ってオンラインによるゲストティチャーとして迎えられてきたので、参加の経緯も含めて、以下この間の授業実践について報告する。

1. 日本語授業への参加のきっかけ

筆者は 2014～2018 年文科省科学研究費(C)「子どものピア関係の発達といじめの発生の関連における臨床発達の研究 (代表:小林勝年)」において、日本とロシアの子どもたちを対象として学校・友達・家庭などについて SCT(文章完成法)を利用した意識調査を 2017 年 10 月から 2018 年 2 月にかけて実施した。その際、ロシアの子どもたちへのアンケート調査に快く応じてくれたのは日本語教育に積極的に取り組んでいるウラジオストック 51 番学校であった。アンケートの回収においては郵便事情が悪いことから 2018 年 2 月 20 日に直接学校に出向いて受け取ることとなった。が、そこで「折角日本から来たのだから」という理由で学校全体の視察と併せて、Светлана(スヴェトラーナ)校長先生からの推薦もあって、ロシア人日本語教師 3 名より以下の授業にゲストティチャーとして迎えられ、漢字や日常会話についての指導を行った。

- ・午前の部
 - 3 限(4 年生 8 名)
 - 4 限(4 年生合同 19 名)
 - 5 限(5 年生合同 25 名)
- ・午後の部
 - 1 限(7 年生合同 25 名)
 - 2 限(7 年生合同 17 名)

午前の部では日本語による自己紹介や漢字について教えると共に、筆者とのコミュニケーションを楽しむ場面を多く設定されたが、午後の部では突然日本から来た筆者に対して以下のような質問が矢継ぎ早に寄せられ、日本語の習熟に伴い日本への関心が高まることを推察させた。



Fig. 1 スヴェトラーナ校長先生(中央)と筆者(右)



Fig. 2 午前3限日本語4年生クラスでの授業風景

<日本の暮らしについて>

- 災害が多いというのは本当ですか？
- なぜ、部屋の中では靴を脱ぐのですか？
- なぜ、箸を使って食べるのですか？
- うさぎを飼っている人が多いというのは本当ですか？
- 秋田犬は買えますか？
- 日本で有名なウィーク(週間)は何ですか？
- <日本の産業について>
- 日本人は本当に手が器用なのですか？
- 日本の技術はどんなところが優れていますか？
- 日本ではロボットがどんな場所で活躍していますか？
- <日本語の文字について>
- 日本語で一番難しい漢字を書いてください。
- 「龍」という漢字を書いてください。
- 漢字と平仮名とカタカナが日本語にはあるのにどうしてパソコンのキーボードを打てるのですか？
- <日本の子どもについて>
- 日本の若者はどうして髪を染めるのですか？
- 日本の子どもは歯が悪いというのは本当ですか？
- <日本の子どもや学校、アニメについて>
- ポケモンを知っていますか？
- トトロを知っていますか？
- (例えばおしゃべりしているなど)先生の言うことを聞かない場合、先生はどうしますか？
- 日本では子ども自殺が減らない話を聞いて信じられない。どうして自殺するの？

《筆者(私)に関する質問》

- アニメは好きですか？ どんなアニメが好きですか？
- ロシアが好きですか？ どんなところが好きですか？

- 映画は好きですか？ どんな映画が好きですか？
- 好きな色は？
- 柔道をしたことがありますか？
- 新幹線に乗ったことがありますか？これまで何回乗りましたか？速度はどれくらいでしたか？
- ペットを飼っていますか？ 昔飼っていたペットは何？
- これまでに行った国で一番良かった国は？
- 東京に行ったことがありますか？
- 千葉について教えてください。
- 子どもの頃の話をしてください。
- 大学でどんな研究をしていますか？
- 日本ではどうしたら大学教授になれるのですか？
- 日本に行くための基金について教えてください。
- 今あなたは「窓の外」を見てどう感じますか？



Fig. 3 午後1限日本語7年生クラスでの授業風景

いずれもロシアの子どもの素朴な質問であったが、日本から発信されている情報の偏りやその影響と共に、子どもの関心の範囲と焦点化の特徴について改めて理解を深めることができた。秋田犬についての質問はフィギュアスケートのザギトワ(Загитова)選手が日本からプレゼントされたニュースに因んだものであったし、高速移動手段としての新幹線に対する人気は未だにロシアでは根強いことが感じられた。とりわけ、「窓の外を見てどう感じるか」という質問はプーシキン(Пушкин)をこよなく愛する少女から発せられたものであったが、我が国と比較して文学や歴史について幼少期から関心を持つように育てられていることも分かった。また、Fig. 3の写真の中央にいる男子生徒は宮崎駿アニメがお気に入りであり筆者が教室に入るなり“подарок”(贈り物)と言ってトトロの絵をプレゼントしてくれた。彼に限らず、日本のアニメに圧倒的関心を持って日常的にDVDを視聴している子どもが多いことも確認された。短い時間ではあったが授業を通してかなり濃密な日露文化の交流が実現されたが、小学校二年生から日本語教育を受けている51番学校の子どもたちに共通して言えるのは、日本の科学技術(手先の器用な日本人)をリスペクトしながらも異質な日本文化に興味を持ち、近くて遠い国という印象を持っていることが感じられた。そうした中、2021年6月、日本への滞在経験もある日本語教師ダリア(Дарья Онисич)先生より鳥取市環日本海経済交流センター長のイリーナ(Чеблакова Ирина)さん宛に、コロナ禍にあってもロシアの学校においてもオンライン授業が可能となったので、これを機会に「日本の子どもたちや文化への関心を高めるきっかけを日本側から発信して欲しい」との要請があり、日露の交流の一環として日本語授業に参加することとなった。

2. 最初は中学生同士の意見交換会から

まずは、手始めに子ども同士の交流から始めたいというダリア先生から筆者に要望があったので、日本側は筆者が、ロシア側はダリア先生が窓口となって Web にて各々交流希望する子どもを募ることとなった。しかし、ロシア側から提示された日時が平日で時差もあることより日本からは中学 3 年生 1 名のみの参加となった。一方、ロシア側も 3 ケ月間の夏休み期間にあることから各生徒に十分な伝達ができず、結局、将来日本に留学して心理学を研究したいという 9 年生 1 名の参加に留まった。

そこで、7 月 21 日日本時間で 9 時から 11 時まで実施したオンライン形式の交流会では前半を筆者が「日本語とロシア語の違いからみた心理的感情の差異について」ミニレクチャーした後、後半は双方の子どもが主役となって「学校でこれがあればいいな」と題しての意見交換を行った。日本の中学生は「友達と一緒に勉強する場があったらいいなあ」と意見表明したのに対して、ロシアの 9 年生は「勉強は自宅で、しかも一人であるもの。友達は遊ぶ時には必要だけど一緒に勉強することはないわ」と答えるなど双方の違いが鮮明となった。また、ロシアの子どもは学校の先生について「勉強以外の時間に先生と交わりたい。勉強ができない時には個人レッスンもあるけど一般的には授業時間だけのつきあいなので少し不満」と漏らすなど教師と生徒との距離感の違いも指摘された。一方、日本の中学生にとっては 3 ケ月間もの長い夏休みが相当羨ましかったようで受験勉強に追われている自分の立場とは対照的に、ロシアの子どもが伸び伸びと生活していることを聞く度に嫉妬を感じていたようだ。参加した子どもは両国から一人ずつではあったが、それ以外にロシア関係者 1 名、日本関係者 3 名がオブザーバーとして参加し、双方の会話を盛り上げるべく雰囲気や醸成してくれた。

3. ゲストティチャーに迎えられて

ロシアでは長い夏休みが終わり 9 月から新学期がスタートしたが、ダリア先生から 9 年生の日本語授業に定期的にゲストティチャーとして参加することを改めて要請された。そこで、Table. 2 に示したように最初は便利な日本語表現についてのワンポイントレッスン等も試みたが、それ以降は絵本の読み聞かせや日本の自然・文化などについて解説を行い、できるだけ相互対話型授業になるように努めた。途中で学校の行事やコロナ感染拡大により自宅でのオンライン授業に切り替わる(2 月)などもあったものの、それ以外は 2021 年 10 月 12 日から 2022 年 4 月 26 日まで 51 番学校日本語教室とオンラインで繋ぎ継続実施することができた(小林, 2022)。最初は日本語での会話も難しくダリア先生の同時通訳に依存していた生徒たちが、筆者が提示するロシア語を一部挿入したスライド資料を見ながら絵本のストーリーが理解できるようになったことは何よりも教育成果であった。

Table. 2 オンラインでの日本語授業の内容

日 時	内 容
2021 年 10 月 12 日	自己紹介 日常の挨拶
2021 年 10 月 19 日	家族や友達を紹介「日本語」で伝えてみよう! 日本について知りたいこと、関心のあること。 (ダリア先生同時通訳)
2021 年 10 月 26 日	身体部位の名称 「幸せなら『手』をたたこう」に合わせて歌で身体各部の名称を確認!
2021 年 11 月 23 日	「わたしは〇〇が好きです」表現を覚えよう! ペリメニ, ボルシチ, ブリヌイ, リンゴ, バナナ, 団子・・・
2021 年 12 月 14 日	Момогаро 一部ロシア語 「ももたろう」の読み聞かせ 秋田・男鹿半島のなまはげ行事の説明
2021 年 12 月 21 日	У тебя правда есть Дед Мороз? Териука Ицукко 一部ロシア語 「サンタクロースってホントにいるの?(てるおかいつこ著)」朗読
2022 年 1 月 25 日	「はじめての日本地図絵本」の読み聞かせ 日本列島および札幌「雪まつり」について解説
2022 年 2 月 1 日	「はじめての日本地図絵本」の読み聞かせ 東京ディズニーランドなど関東の観光地について解説
2022 年 3 月 3 日	「はじめての日本地図絵本」の読み聞かせ 都道府県別の特産物の説明 野菜・魚・果物など
2022 年 3 月 22 日	イソップ物語「うさぎとかめ」朗読 『びっくり仰天って何?』?
2022 年 4 月 5 日	桜 花見 お団子 菜の花 花見弁当 4 月春の行事
2022 年 4 月 19 日	Катикатияма 一部ロシア語 「かちかちやま」の読み聞かせ
2022 年 4 月 26 日	「お団子パン」 Колобок ロシアの子どもたちによる日本語朗読

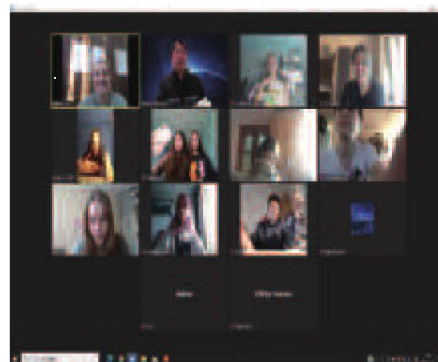


Fig. 4 Covid19 感染防止のため自宅授業にした時の様子 (最上段 1 列目がダリア先生、2 列目が筆者)

それを証明したのは2022年4月26日の授業である。この日、生徒たちはロシアの昔話 **Колобок** 「お団子パン」の日本語版絵本を皆で呼びかけながら流暢に発表してくれた。ダリア先生にその詳細を尋ねてはいないが、筆者がそれまでに扱った日本語版絵本「ももたろう(いもと, 2001)」「サンタクロースってホントにいるの?(てるおか, 1982)」「うさぎとかめ」「からかちやま」の絵本の読み聞かせを念頭に、現地での日本語授業あるいは宿題として相当練習を重ねてきた賜物であったに相違ない。



Fig. 5 **Колобок** を日本語で読みあげる生徒たち

この間のオンライン授業では学習者の認知や態度に着目して教材づくりを進めてきた。例えば、「わたしは〇〇が好きです」の例文練習の際、敢えてロシア料理と日本の食べ物を比較しながら学習させたことは食文化への興味と構文理解が統合され、ロシアにしかない食べ物やロシアにもある食べ物、日本にしかない食べ物へと語彙が拡大されたばかりではなく、食べ物以外に自分が好きなモノ・コトを表現する態度への変容を促し、リズム感あふれる授業となった。また、筆者自身がロシア語と日本語を交互に入り交えて説明したり、生徒たちが日本語で表現できない語句はロシア語で表現してもいい雰囲気づくりの中で進めてきたので会話が止まるようなことはなかった。



Fig. 6 「わたくしは〇〇が好きです」の教材

日本の地理を知る上で活用したのは「はじめての日本地図絵本(赤澤, 2008)」という絵本であった。簡単な統計や全国各地の特産物や観光地、祭りなどかわいいイラストとカラフルな色彩で紹介されており、子どもたちも興味を持って授業参加することができた。

「うさぎとかめ」のイソップ絵本ではうさぎがかめに追い抜かれて「びっくり仰天」する場面が登場するが、この表現が面白かったのか、子どもたちは何度も反芻していた。しかし、「びっくり仰天」した体験について一人一人に発表することを求めてみると、単なる驚きではなく飛び切り驚いているニュアンスまでは伝わり切っていないことが認められた。異文化交流という視点からすると2022年4月5日の授業で花見に関するスライドを見て、生徒の一人から「何故、日本人は桜がそんなに好きなのですか」という質問に対して、長い冬を耐え抜いた

解放感の象徴で、春の到来を告げる花であることを回答したが、散り際の良さから日本人の死生観に深く影響を与えていることや「花より団子」という回答も考え得ることを後日反省した。おそらく、こうした多重な意味が加えられてこそ今日の花見文化が形成されているのだと考えると互いの国の文化理解には相当な時間や経験が求められることは必須で、継続して対話していくことの重要性を改めて認識する契機ともなった。

尚、51番学校では3月25日に日本語で暗記してスピーチするコンテスト(Выступление с речью на японского языке наизусть)が開催されたが、エントリーして選ばれた6~9年生4名に対してネイティブとして筆者が審査員を務め、発音(Четкость и правильное произношение)、表情力(Выразительность)、スピード(Скорость)に関しての評価を行った。

4. オンラインによる対話型の日本語授業

2021年10月12日から2022年4月26日までの授業実践を振り返る間もなく、ダリア先生より2022年9月の新学期からもオンラインによる日本語授業についての依頼が届けられた。時間調整の上、隔週水曜ロシア時間で13時25分から13時55分までの変則的な30分間を授業枠とし、その対象は7年生であることが決定された。そこで、筆者は日本語学習の初学者である点から、同世代にある日本の子どもたちの学校生活や伝統行事について絵本や写真、歌などの教材を用いて簡単な説明を加えた後、受講している子どもたちからの質問に答えるという対話型指導をTable. 3に示したように実施した。

Table. 3 対話形式のオンライン授業の内容

	日 時	内 容
1	2022年9月28日	アニメ ジブリパーク「紅の豚」「となりのトトロ」「千と千尋の神隠し」「耳をすませば」
2	2022年10月19日	日本の秋 おいしい食べ物 「小さい秋みつけた」歌唱
3	2022年11月9日	日本の学校 「登校」「下足箱」 「給食」「通知表」など
4	2022年11月23日	着物
5	2022年12月21日	日本各地の祭り
6	2023年1月18日	お正月
7	2023年2月1日	節分 「豆まきと鬼」
8	2023年2月15日	ひな祭り
9	2023年4月18日	こいのぼり
10	2023年5月17日	日本においでよ!

初回は何といってもほとんどの子どもたちが高い関心を示している日本アニメについての紹介である。筆者は幸いジブリパークに入場した経験があったのでその時の館内での様子や宮崎駿作品について幾つか紹介したが、「どんなアニメがお薦めですか」、「どんな作品が好きですか」、「ジブリパークにはどうして行けるのか」、「入場料はいくらか」など今すぐにもジブリパークに行きたそうな表情で質問が投げかけられた。

2回目は10月という季節にちなみ「小さい秋みつけた」の歌唱を行なったが、日本のように四季を感じるが少ない子ども達から「今、日本の気温は何度?」「秋のシンボルは何?」「ハロウィンをするの?」など素朴な質問が寄せられた。そこで筆者は日本では紅葉を愛でるシーズンであり、おいしい食べ物の収穫時期でもあることを説明した。米(рис)、りんご(яблоко)、葡萄(виноград)、柿(хурма)、栗(каштан)、梨(груша)、無花果(инжир)、さつまい(сладкая картошка)などについて「ロシアでも食べていますか?」と尋ねるとロシア語で“да”(はい)、“нет”(いいえ)と考えながら日本語で応答しようとする姿勢が認められ、食べ物への関心が会話を促すきっかけになることを改めて感じた。

3回目は日本の学校生活について紹介したが、登校時刻が決まっていること、集団登校や給食・掃除の時間があること、下足箱が設置されていること、通知表があることを紹介するといずれもロシアの学校にはないことなので、子どもたちから質問が出ることはなかった。しかしながら、ロシアでは学校に滞在しているのは精々半日程度なので8時から15時まで日本の子どもたちが学校に滞在していることを紹介すると皆一斉に驚いていた。

4回目は「着物」を紹介した。呉服屋さんの写真を見て「これはどんな店ですか(Что это за магазин?)」の発問に始まり日本ではお正月や結婚式、成人式、子どもの日・ひな祭りなどの機会に身に着けていることを紹介した。ロシアでは剣道・柔道・合気道・空手道など武道を習っている子どもが多く、武道着と帯を扱っていることからイメージしやすいテーマであった。また、「七五三」の儀式は鎌倉時代(1185-1335年)に帯を結べるようになった子どもの成長を祝ったことから明治時代(1868-1912年)に制度として定着した行事であることも紹介した。



Fig. 7 「着物」に関する教材の一部

5回目は札幌の雪まつり、青森のねぶたまつり、岩手のチャグチャグ馬つこ、仙台の七夕まつり、京都の祇園まつり、岸和田のだんじり祭り、岡山の裸まつり、徳島の阿波踊り、高知のよさこい祭りなど日本各地の「祭り」を紹介した。観光協会や祭りの実行委員会が紹介している写真や解説をスライドにまとめ、一部動画の共有も行った。迫力ある映像を見て子どもたちから寄せられた質問は以下の通りであった。

- ・日本ではいくつ祭りがありますか?
- ・マースレニツァ(春を祝うロシアの祭り)という祭りがありますか?
- ・どんな おまつりがいちばん好きですか?
- ・子どもの日が好きですか?
- ・どうやってお正月を祝いますか?

- ・クリスマスを祝いますか?

6回目は日本のお正月について「おせち料理」、「初詣」、「しめ飾り」などの一般的なことを紹介した後で、正月遊びとして「凧あげ」、「コマ回し」、「福笑い」、「かるた」などを扱った。なかでも、福笑いはロシアでも似たような遊びがあるようで関心が高かった。また、授業の導入で「炬燵」についてロシア語で尋ねてみたが知っている者は誰もいなかった。



Fig. 8 「これは何ですか?」

7回目は、直前に迫った2月3日が日本では「節分」の日に当たるので「節分と豆まき」について紹介した。先ず、これは平安時代(794年~1185年)に始まった行事で、季節の変わり目には邪気(鬼)が生じると信じられていたのでそれを追い払うための悪霊ばらいであることを伝えた。そこで、鬼を追い払う行事として子どもたちは理解したようだが、そもそも「ロシアには鬼がいない」とする子どもと「いる」と意見する子どもが現れ、議論となった。「いない」と表明した子どもからは「鬼」について以下のような質問が寄せられた。

- ・どんな顔をしているのか?
- ・どんな色をしているのか?
- ・どこに行けば会えるのか?
- ・どんな服装をしているのか?
- ・鬼は人間なのか?
- ・身長はどれくらいなのか?
- ・本当に怖いのか?

また、議論の中で「鬼はいないけど『お化け』ならいる」と主張する子どもも現れ、授業の最後に筆者から「それでは皆さんが一番怖いものは何ですか」と議論を閉める質問を投じた。すると、「お母さん」とか「先生」とか「宿題」とか出てきて爆笑の内に終わった。

8回目は「ひな祭り」について紹介した。異文化理解の前提としてロシアにこうした祭りがあるかどうかの確認が必要であるため、先ず日本では「女の子の祭り」として定着していますが、そもそも「ロシアには女の子の祭りがありますか?」(У вас есть фестиваль для девочек?)という発問から始めた。もちろん、答えは“нет”(いいえ)であったので「ひな祭り」や「桃の節句」、「ひし餅」、「はまぐり汁」、「雛あられ」などその周辺的な情報を伝えるに止めた。

9回目は「こいのぼり」について紹介した。日本では5月5日が「子どもの日」となり、「男の子の祭り」として定着しているが、ロシアの子どもたちから見ればそうした捉え方に違和感があったようだ。女の子も男の子も「子ども」なのにどうして「男の子の祭り」として『こどもの日』が定着しているのか。ロシアの子どもたちの感想から筆者は子ども行事にまで浸透している男性社会の根深さを知ることとなった。そこで、兜や柏餅、ちまき、こいのぼりの由来について紹介した後、絵本「金太郎」の読み聞かせを行ったが、ストーリーより金太郎が

熊と相撲を取る場面に興味を向ける子どもが多く、「相撲」への関心の高さを伺い知ることとなる。

10回目は夏休みに入る直前であったので絵本「はじめてのにほんちずえほん(赤澤, 2008)」を用いて日本各地の観光地を紹介し、「わたしは〇〇に行きたいです」の例文を用いて地名を日本語で伝えることと各自どんなものに興味を持っているかについて語り合った。



Fig. 8 「日本においてよ!」で活用したスライド

以上のように、日本語学習の初学者7年生のオンライン授業を担当してきたが、対面とは異なって生徒全員の表情が読み取れない反面、発言する時は生徒一人一人がパソコン画面まで移動してカメラの前で発表するため教師(筆者)との丁寧な対話が保障され積極的な授業参加が図れた。また、ロシアでもインターネット環境が整備されてきたので画像や映像を容易に共有することで日本文化への興味が一層膨らんだものと推察された。

加えて、筆者はこれまでに7回ロシアに渡航してきたが、教材作りや生徒からの応答を通して、改めて日本やロシアの文化についてより深く理解することができ、「教える者が一番よく学ぶ」を改めて体験的に認識することができた。

5. 総括

そのきっかけも含めて、計画的にロシアの子どもたちに日本語指導した授業実践ではなく、コロナ禍でロシアでもオンライン教育が普及する中、ウラジオストック 51 番学校で定期的にゲストティチャーとして迎えられた筆者の授業づくりとその生徒たちの反応についてまとめてみた。授業づくりのポイントとしては筆者がロシア語を習得した過程をモデルにしながら、それを日本語に置き換えてロシアの子どもたちと接していくことであった。ロシア語会話のテキストの多くは日常会話や家族、学校、仕事などに始まり様々なシチュエーションが多く、子どもたちは縁遠いものも存在する。かと言って、構文や文法、文字ばかりでは、かつての文法重視学習に陥ってしまう。櫻井・中島(2014)は多言語環境に育つ子どもたちの言語発達において、会話で用いる言語と認知・思考する言語の差異が生じることに着目しそのズレを埋め合わせるべく支援者の多言語使用の効果を認めているが、結局筆者のロシア語と日本語の併用授業はそれと似たような環境になっていたと思う。すなわち、会話練習のための会話練習ではなく、自分の意思や気持ち、要望などを伝えるシチュエーションを授業の中で作り出し、日本語で表現できなければロシア語で伝え、筆者も生徒もロシア語と日本語を併用しながら互いの母国語ではない言語で理解しあうように努めていく。「伝わる」、「伝える」という報酬こそが言語発達を促していく一番の原動力であるとすれば、会話をするための文法であり、文法を生かした会話でなければならず、ドリル学習では到底克服できない課題である。しかしながら、伝

わらない言語より伝わる言語を用いることへ容易に傾き、外国語の学習が停滞することもある。その意味で **Выготский (1982)** は外国語の学習こそ科学的概念の取得と同様に、自覚的な努力抜きでは成立しないことを指摘した。

Zimmerman(2001)による自己調整学習はそれを自律的動機づけによる学習と定義づけたが、外発的な動機づけが学習者に取り入れられ同一化・統合されるプロセスを前提とした外国語指導が今後更に求められていくことだろう。少なくとも佐伯(2023)が指摘するように、国内においも日本語指導を求めている子ども達は年々増加しているのだから。

【引用文献】

- 赤澤豊(監)・絵:てづかあけみ(2008) はじめてのにほんちずえほん PIE International .
- Выготский, Л. С.(1982)** Мышление и речь. в кн. : **Выготский, Л. С. Собрание сочинений, т. 2, М., Педагогика.**
- いもとようこ(文・絵)(2001) ももたろう. 岩崎書店.
- キッズ外務省(2014)「世界の学校を見てみよう」—ロシアの学校では今—ウラジオストック編
https://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/kuni/rus_vla_2014.html
- キッズ外務省(2015)「世界の学校を見てみよう」—ロシアの学校では今—サンクトペテルブルク編
https://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/kuni/russia_stp_2015.html
- 小林勝年(2018)科学研究費研究成果報告書「子どものピア関係の発達といじめ発生の関連における臨床発達の研究」
<https://kaken.nii.ac.jp/en/file/KAKENHI-PROJECT-26350929/26350929seika.pdf>
- 小林勝年(2022)ウラジオストック 51 番学校における日本語授業サポート, 子どもの発達・学習研究センター年報(8), 57-58.
- 大政美南(2021)ロシア・モスクワの日本語教育—日本語を第一外国語として学ぶ大学生の実情—, 言語習得と日本語教育, 1, 子どもと大人の日本語習得と教育デザイン研究会, 185 - 192.
- 佐伯康考(2023)日本語指導を必要とする児童生徒の教育課題の変容:多様化・複雑化する教育課題, 経済学論究 76 (4), 31-49.
- 櫻井千穂・中島和子(2014)多文化多言語環境に育つ子ども(CLD 児)の読書力をどう捉え、どう育てるか, 日本語プロフィシエンシー研究, (2) 70-95.
- てのおかいつこ(文)・絵:すぎうらはんも(1982) サンタクロースってほんとにいるの?, 福音館書店.
- 藪崎義雄(2006) ロシアにおける日本語教育の現状と問題点, 創価大学大学院紀要 28, 大学院紀要編集委員会編 149-172.
- Zimmerman, B.J. (2001)** Models of self-regulated learning and academic achievement. In B. J. Zimmerman & D. H. Schunk (Eds.), Self-regulated learning and academic achievement: Theoretical perspectives . New Jersey : Lawrence Erlbaum Associates publishers pp. 1-25.

※2024年1月、7年生 32名から筆者に届けられた年賀状



